

舟の行くの丘もくや野のあり
 居赤丸
 舟守
 知徑
 杏雨
 文御
 魚言
 可川

舟の行くの丘もくや野のあり
 舟守
 知徑
 杏雨
 文御
 魚言
 可川

舟の行くの丘もくや野のあり
 舟守
 知徑
 杏雨
 文御
 魚言
 可川

眠序

浅草北馬道 月次表 夕合 丑五月分
 大所堂 杉面

小舟軒 評
 天十三高斜月地上 楓何人十言 詞蝶
 橋外土琴身十梅土九西波全汁栗全之宮
 卷中五印
 水物字 楓行 舟 舟
 舟の行くの丘もくや野のあり
 舟守 知徑 杏雨 文御 魚言 可川

詞蝶
 全遊
 杜高
 汁栗
 琴哥
 西波
 赤城
 石窓
 新輝
 全曲
 楓阿

のりまゝのわらわらもや水馬
百世の重んじらるる甲斐も
申すこのいふまゝのわらわのほ
としくは油のつくは行ふ

再考七印

聖師もや寺乃ち語を識り這
たも味存多岐の言や五月日
舟の場有るはかへつら
さけりも梅の水や柿の花
那もくしのりも水漬 晴水稲
八百集評

天十聖程群 地十立柳系ぬ人十立増群

有晴待を待りてさふ
そふくも空を空する五月日
さきもくも解てちひさき水字が

風道て候りもさきを局群
五月也一能はるる落一水

小有軒 八百集
号川

全成 全成 全成 全成
科月 科月 科月 科月
一芽 一芽 一芽 一芽
柳系 柳系 柳系 柳系
鳩群 鳩群 鳩群 鳩群

布雲庵葛詠評 月次三句合

天五五菊子 地六口寛里 人又五口整々

美外 抱民 葛詠 葛哉 湛淵 葛哉 十位 各位

○五也之詠
懐念をくしりてあけりて
待菊かかきし月日は三
兼りも有るは九月の
庭歩り服若かりし菊の
啼声の聲もゆりし
吟てかりしをゆくや
少訓と若もさしや
若吟やかれ枝おさし
り秋はもうまはゆり
目をさるは流や
菊も持てるは流や
の秋や菊の葉は針の
持てるは流や

琴電 泉々 十位 各位
十位 各位 十位 各位
十位 各位 十位 各位
十位 各位 十位 各位

新選金池記

観た菊はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

今らん

花の葉をばさきとちやうど同じ
ゆゑにさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

〇

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

一校
五箇
主 備 布泉
恭 葛 裁
布 裁

寛 葛 裁
濃 葛 裁

今 今 整 宣 葛 裁
今 今 整 宣 葛 裁

後地は秋のけしき

布 雲 庵

新選金池記

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

梅の花はさきのやうな所へあるが
咲く前の葉も地を覆ふるの如
く、その葉もさきとちやうど同じ
葉の柄もさきとちやうど同じ
花の柄もさきとちやうど同じ
こゝろから秋のけしきもさきと
ちやうど同じ

廣

以廣之... 廣者... 廣之...

紅都丁東... 廣之...

六十五... 廣者... 廣之...

本... 廣者... 廣之...

廣者... 廣之... 廣之...

廣者... 廣之... 廣之...

松

六十五... 松... 松之...

月... 松... 松之...

白

六十五... 白... 白之...

白... 白之... 白之...

白... 白之... 白之...

石

六十五... 石... 石之...

石... 石之... 石之...

五月の事あり... 山... 竹... 巨...

玉川... 和山... 相...

五月の事あり... 山... 竹... 巨...

玉川... 和山... 相...

五月の事あり... 山... 竹... 巨...

玉川... 和山... 相...

おのれ十年分人させり
えりてくもひのまな人大ゆ
糸となくくくかやしく豊や
ぬかおるをりあもてさ
おのれのとちささるるは
七
七

ヨッヤ
桐堂二
、
五
カ、
柳屋

九日ともてりてり 燈籠の
園亭の目まき かつ 梅月

ウレモ
枝

老谷藤村麻引 カチ 鳥水
ふりおのくつてまね 飯のつと
脂よこつてつてのこけりる
あくの味あしあつてさひ

社 鳥
社 鳥

玉雪 許庭引 カチ 社 佐
表前や一更りよりのあり
ほれおのれさかむや浮移り
あふやまのあつてつて月よ

社 佐
社 佐

猿蓑々々厚の
あつてりり

社 佐
社 佐

外神田仲町

松の湯楼 越額
菊の園 撰

天五番 柳花 地合 雨鶴 人五番 香長
あふ 柳花 村友 女 市 鏡 風 菫 柳 月

月おきく 柳子のさふ 花糸
雨のあえ 柳のさふ 花糸
つてりり 柳のさふ 花糸
あふり 柳のさふ 花糸
一 柳のさふ 花糸
三 柳のさふ 花糸
柳のさふ 花糸
新 柳のさふ 花糸
三月 柳のさふ 花糸
と 柳のさふ 花糸

西の
秋の
外柳
柳
カ
那山
長考
其
大
長
花子
柳
柳
松
雨
柳
時
之

晴るぬのて一ふるりの春風の道
 岸もまにけしむる春の川辺に
 半歩もやゆたかの上は春の月
 思ふもやゆたかの上は春の月
 笑々園撰

天日五泉海 地日吾魚花 人日吾珠
 萬年空風 花邊 舞臺月 二柳 晴風堂

晴るぬのて一ふるりの春風の道
 岸もまにけしむる春の川辺に
 半歩もやゆたかの上は春の月
 思ふもやゆたかの上は春の月
 笑々園撰

柳風香撰
 天日吾一舞 地日吾魚花 人日吾珠
 萬年空風 花邊 舞臺月 二柳 晴風堂

晴るぬのて一ふるりの春風の道
 岸もまにけしむる春の川辺に
 半歩もやゆたかの上は春の月
 思ふもやゆたかの上は春の月
 笑々園撰

水もや後のあはれは松のけ
むらや屋は接し竹のつる

本邑

一松

ハ那れ扱へてまゝう梅のえ

梅

魚池

その末とたよりけや松のえ

茶屋

江の月よき色はうちを

池

二橋

隠れをきき方い後安し菊の

つゆ

る凡のうらみぬへし松の枝

企

泉隣

松川や海にう屋をりり松

花

梅山

浪佛や海邊

花

梅山

とまも装し

刊

梅兜

とまも装し

刊

梅兜

あはれのほの

撰去

見和

一編をうし

撰去

見和

さのよ

根々本洋行二月分

天二十万秋

地十九新井

人唯沙月

番あり春路 春生 一南 三矢 井成

七

新井

そこのちきんの人ゆりゆりの出

新井

よみくも母はきききききききき

新井

やんばりやんばりやんばりやんばり

新井

かきかきかきかきかきかきかき

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

あはれあはれあはれあはれあはれ

新井

月余社表の詳
天三馬余 地五標二 人唯其夕

備有 藤人 松陰 新井 大保 素人 高枝 白境

此の地は... 藤人... 松陰... 新井... 大保... 素人... 高枝... 白境... 月番... 末... 賀... 社... 松... 本

此の地は... 藤人... 松陰... 新井... 大保... 素人... 高枝... 白境... 月番... 末... 賀... 社... 松... 本

惟平素の年

此の地は... 藤人... 松陰... 新井... 大保... 素人... 高枝... 白境... 月番... 末... 賀... 社... 松... 本

此の地は... 藤人... 松陰... 新井... 大保... 素人... 高枝... 白境... 月番... 末... 賀... 社... 松... 本

麻の葉の多くてその...
 白紙入る...
 山崎下...
 鶴...

續六百十一會
 天保癸卯閏九月分
 句合朱上
 其日菴評

月代小の光や...
 秋の夕...
 虎素...
 山崎下...

川り馬を足るかきりきり
今一人後し紙り秋の
只一人後し紙り秋の
待ち月やつまねる
上思ふ女宿りまきの
相思ふ心さや二日月
入の紙る葉もあいの
何れ思ふ紙る葉もあいの
秋風ふ雨戸のやあれ志
暁糸ふはあき鴨のほろ
小を日和は袖のせたる
色をや萩の中ある一里
小の月核のよふよふ
杖の手板足ふとや長ら
門

其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其

虫のくや二足三足 州の
孫供の 孫供の中ある一里
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其
其期松木其

田二道
道二道
道二道
道二道
道二道
道二道
道二道
道二道

菊...
 志...
 浩...
 軸...
 竹...
 其...
 其...
 其...

筆...
 似...
 其...
 其...
 其...

天
 靜暉
 地
 野樗
 人
 文枝

二
 柳和
 豐雨
 其雲
 左...
 清...
 其...

其

續二百字二會目
癸卯九月方

天
 地
 人
 芭蕉...
 不...
 七...

句合朱上 桃葉菴評

燈...
 雨...
 竹...
 石...
 其...
 其...
 其...

我一人は秋の葉を
 川原のほとりへ
 朝の光を浴びて
 夕陽の影を
 月夜の静けさ
 朝露の清涼
 秋の風を
 木々のざわめき
 鳥のさえずり
 虫のしずか
 人の足音
 心ゆくまで
 秋を満喫す

秋の風を
 木々のざわめき
 鳥のさえずり
 虫のしずか
 人の足音
 心ゆくまで
 秋を満喫す

秋の風を
 木々のざわめき
 鳥のさえずり
 虫のしずか
 人の足音
 心ゆくまで
 秋を満喫す

秋の風を
 木々のざわめき
 鳥のさえずり
 虫のしずか
 人の足音
 心ゆくまで
 秋を満喫す

西行
まふ雲堂評

天^の幸^ひ一九 地、笑山人、春鳥

松のありのあり〜
いふふ〜
松

松の産所のあり〜
編うり人〜
夕うり〜
拂ふ〜
わ〜
樺〜
松

あをぬむ火〜
山引板の〜
山
松

菊当因内並辰九月分

天^の幸^ひ一九 地、瑞池、人^の幸^ひ一九

あをぬむ火〜

秋の〜
花〜
山〜
池〜
松〜
山
松

志野提

青雲舎小春楽評

天

天五孝和 地五武 人五香

丹

丹五孝和 丹五武 丹五人

人

人五香

全

涼雲舎巨山人評

天五武 地五武 鬼武 人五香

外

外五孝和 外五武 外五人

人

人五香

丹五孝和 丹五武 丹五人

人

人五香

入梅や柏香りもく 夕照や雲
木曾川の水香清く 夕暮る
涼しくも梅を眺むれば 夕照の霞
引越せば 夕暮るの 梅半 袖所
庭にさす夕暮るの 梅半 袖所
梅屋のわが 梅屋のわが 梅屋のわが
涼しくも梅を眺むれば 夕照の霞
梅屋のわが 梅屋のわが 梅屋のわが
梅屋のわが 梅屋のわが 梅屋のわが
梅屋のわが 梅屋のわが 梅屋のわが

山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕
山 夕

七印

よききりやあけりの後し
帆柱のちる木のちり
鯉のちる木のちり
藤のちる木のちり
柳のちる木のちり
杉のちる木のちり
松のちる木のちり
竹のちる木のちり
草のちる木のちり
花のちる木のちり
鳥のちる木のちり
虫のちる木のちり
魚のちる木のちり
獣のちる木のちり
人のちる木のちり

素松
一磨
志也
丸

劫

笠木

清水呑たり

谷ハ

竹操庵

天六五〇一磨

地五五二磨

人具羅丸

案外

氷嘉 玉枝 奥山 知岳 我笑

交吉

河のちる木のちり

みくもく 田植笠

大坂

梅室

浮上る 峰 伝る たり

風 妙 雲

号崎

余池

帯のちる木のちり

鳴りたり 台 手 舟

大坂

一宵

往く人の 吹 たり

啼 丸 川

梅室

余文

降る ちる 木の ちり

あり ちる 木の ちり

京

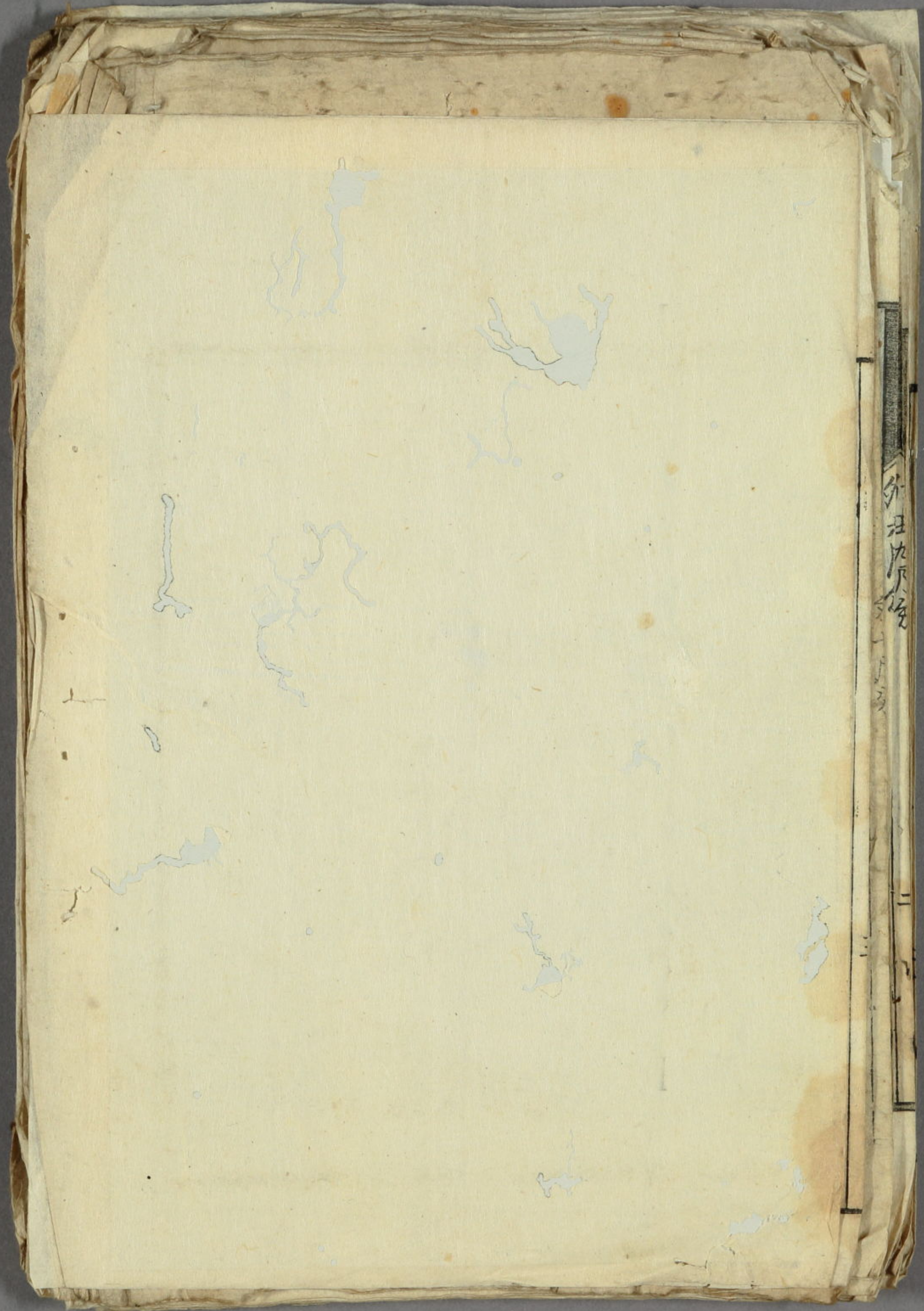
谷手

川と 丸 子 二 報

鳴り たり 鳴 水 鴨

川崎

東真



分
庄
次
原
後